



2026年07月02日
株式会社デジタルグロースアカデミア

**AI デジタル定着プラットフォーム「みんなデ EX」に
DX 推進・AI 活用を支援するアシスタント「みんなデ AI」を搭載**
～「学んで終わり」の社員教育を変え、「現場で活かせる知見」を即時で得られる～

株式会社デジタルグロースアカデミア（本社：東京都、代表取締役社長：全 詠九、以下 DGA）は、1月のリリースから半年でユーザー数が1万人に至った AI デジタル定着プラットフォーム「みんなデ EX」に、DX 推進と AI 活用を支援する AI アシスタント機能「みんなデ AI（beta）」を搭載し、2026年7月より提供を開始します。

DGA はこれまで、多くの企業の AI・DX 人材育成を支援してきました。

支援を続ける中で見えてきたのは、企業が質の高い学習機会を提供しても、それだけでは社員の行動変容や業務での実践につながりにくいという現実です。

その背景には、企業が提供する研修や e ラーニングなどの学習機会（**供給**）と、社員が業務の中で知識やヒントを必要とするタイミングや内容（**需要**）との間の「**ミスマッチ**」があります。

DGA は、企業が一律に学習機会を提供する従来の考え方ではなく、社員一人ひとりが業務の中で「**今知りたい**」と感じた瞬間に、**必要な知見を得られる新しい仕組み**として「みんなデ AI」を提供します。

これまでの課題：成果につながりにくい教育投資

生成 AI をはじめとするデジタル技術の進化は加速的に進んでいます。

企業は、社員が新しい知識やスキルを習得し、現場で実践できるよう、人材育成への投資を続けています。

しかし現実には、

- 日々の業務に追われ、学習が後回しになる
- 社員教育の内容と現場が困っている課題が一致しない
- 受講完了や教材の消化が目的となり、学びが実践につながりにくい

といった状況が生じ、

教育投資が十分な成果につながりにくいことが、多くの企業に共通する課題となっています。

解決へのアプローチ

DGA は、この課題を解決するためには、新たな教育コンテンツを増やし続けるのではなく、企業がすでに保有している**知見やノウハウを、必要な人へ、必要なタイミングで届けることが重要**だと考えました。

多くの企業には、e ラーニング教材や動画、マニュアル、業務ノウハウなど、現場で活用できる知見が数多く蓄積されています。

DGA は、それらを社員一人ひとりの業務課題と結び付ける仕組みづくりに着目しました。

「みんなデ AI」は、教育コンテンツを「受講するもの」から、「業務の中で活用する知見」に変え、利用者が業務の中で継続的にスキルをアップデートできる伴走者にします。

その発想の転換が、「みんなデ AI」の基本設計となっています。



「みんなデ AI」の主な機能

「みんなデ AI」は、社員が業務の中で生まれる疑問や課題を AI に相談することで、その場で必要な知見や解決策、ヒントを得られる AI アシスタントです。

例えば、

- AI を業務でどう活用すればよいかわからない
- 提案書作成のヒントがほしい
- 部下育成やマネジメントに悩んでいる
- DX 推進をどこから始めるべきかわからない

といった相談に対し、DGA が長年に渡り現場で蓄積してきた知見を基に AI が回答します。

① DGA ナレッジによる 信頼性の高い AI 回答

利用者が入力した質問に対して「みんなデ AI」が返す回答の基となるのは、DGA がお客様と共に DX の現場で培った AI やデジタル活用の業務ノウハウ、業務改善の事例、そして解決の知見が反映された 500 以上の独自ナレッジのデータベースです。

このデータベースを基に、信頼性の高い回答を提供するのが「みんなデ AI」です。

一般的なインターネット情報とは異なり、企業での実践に活かしやすく、且つ安心して利用できる情報を提供します。

みんなデAIのナレッジの強み



② AIからのナレッジ回答とコンテンツレコメンド

質問内容に答えながら、AIが関連性の高い動画や教材をあわせて提案します。

利用者自身が「何を学ばよいかわからない」「どの教材を見ればよいかわからない」という状態を減らし、一人ひとりの相談内容に応じた知見へスムーズにアクセスできます。

- 回答は業務に役立つ要点をテキストでわかりやすく提示
- 関連する動画コンテンツもあわせて提案し、「ついでの学び」を促す
- ナレッジの範囲外の質問には、その旨を明示してお伝えします

みんなデAI beta

普段の業務でGoogle Workspaceを使っていますが、基本的な機能しか使えていません。業務効率化につながる便利な活用テクニックを教えてください。

Google Workspaceは基本機能だけでなく、チーム全体の業務効率を大きく変える使い方があります。まずは「つながる・見える・はかどる」という3つの軸を意識することが、本当の活用につながります。

タスク管理を全員で共有する

チームのタスクを一元管理することで、誰が何を抱えているか一目で分かり、抜け漏れを防げます。みんなで協力して動けるようになるのが大きなポイントです。

【ダイジェスト版】Google Workspace講座 (1分) _ 【ダイジェスト版】Google Workspace講座

リアルタイムでデータ・ファイルを共有する

物理的に距離が離れていても、社員同士がリアルタイムでデータやファイルを共有でき、顧客の要求にも即座に対応できるようになります。これが「つながる」という実感につながります。

アニメでわかる！製造業向けはじめてのDX (32分) _03_キーフ

もう一度質問する

DGAナレッジに基づく AIアシスタント回答

課題・相談に関連した動画のレコメンド

↓ ↓ ↓

“ついで学習”に繋げる

③ 初めてでも迷わない UI 設計

AI の利用に慣れていない方でも直感的に利用できるよう、サジェッションボタンを搭載しています。

例えば、

- 「説得力のある提案書を作りたい」
- 「部下育成のヒントがほしい」
- 「AI 活用の事例を知りたい」

など、利用シーンに応じたボタンを選択するだけで、AI との対話を始めることができます。



社員・企業にもたらす価値

① 社員にとっての価値

「みんなデ AI」は、業務の中で生まれる課題に対して、必要な知見へすぐにアクセスできる環境を提供します。

社員は、

- 「誰に聞けばいいかわからない」を減らせる
- 「何から始めればいいかわからない」を解消できる
- 今の仕事に役立つヒントや知見を、その場で得られる
- そのまま業務で実践できる知見を得られる

ようになります。

「コンテンツを受講する」で留まるのではなく、仕事を前に進める知見を得て、実践につなげられます。

② 企業・事務局にとっての価値

「みんなデ AI」は、人事・教育担当者や DX 推進担当者の運営負荷軽減と、教育投資の成果向上を支援します。

従来の研修や e ラーニングの運営では、

- コースの選定
- 受講案内

- 学習テーマの設計
- 未受講者へのフォロー

など、多くの運営工数が発生していました。

「みんなデ AI」では、社員自身が業務上の課題を起点として必要な知見へアクセスできるため、事務局が継続的に受講を促し続ける負担を軽減できます。

さらに、社員一人ひとりが「今必要な知見」を業務の中で活用できるようになることで、

学習機会が受講で終わらず、現場での実践につながりやすくなります。

これにより、企業は教育投資の成果を高めるとともに、

「受講を管理する仕組み」から、「社員が自ら知見を活用する仕組み」に変わります。

✓ 提供開始時期・対象

- 提供開始：2026年7月
- 対象：みんなデ EX 契約法人

✓ 代表コメント

私たちはこれまで、多くの企業の AI・DX 人材育成を支援してきました。

その中で強く感じたのは、良い教材や学習機会を提供するだけでは、社員の行動変容や現場での実践には十分につながらないという現実です。

だからこそ私たちは、「どんなコンテンツを提供するか」だけでなく、「必要な知見を、必要な人へ、必要なタイミングで届けるにはどうすればよいか」という視点から、人材育成のあり方を見つめ直しました。

「みんなデ AI」は、その考え方を形にした新しい挑戦です。

私たちはこれからも、企業に蓄積された知見が現場で活かされ、一人ひとりの行動変容と企業の成長につながる人材育成の実現を目指してまいります。

代表取締役社長 全 詠九

お問い合わせ

▶連絡先：

株式会社デジタルグロースアカデミア 広報担当

メールアドレス：marketing@dga.co.jp

■株式会社デジタルグロースアカデミアについて (<https://www.dga.co.jp/>)

デジタルグロースアカデミアは、2021年4月1日に株式会社チェンジとKDDI株式会社との合併会社として設立されました。企業や政府官公庁の生産性向上のためのテクノロジー活用および人材育成事業を展開するKDDI株式会社の子会社であり、DXに特化したコンサルティングおよび人材育成の会社です。

DXの企画、導入コンサルティングからデジタル人材の育成まで、トータルで支援。

自ら DX の現場を持つことで得られた学びをもとにした教育コンテンツである研修やワークショップ・e ラーニングは自治体、民間企業など毎年数万名へ提供しており、DX の加速に貢献しています。

<https://www.dga.co.jp/>

■ 商標について

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。